

拓魂碑と畜魂碑

宮城県大崎市鳴子・上原開拓

宮城県の北西部、上原（うわはら）開拓地は、大崎市の（旧）鳴子町・岩出町、栗原市の（旧）一白町・花山村の4地区にまたがっている。同開拓地は、軍馬を育成する「陸軍軍馬補充部」の跡地が中心だった。1946（昭和21）～48年、緊急開拓事業により外地引揚者102戸が入植し、地元増反者や元・軍馬補充部従業員を加え、計229戸の大開拓地となった。

奥羽山系に連なる標高約300mの高台地。原野、山林を鍬による手起こしで開墾した。火山灰土壌で酸性吸収度高く、土地生産性が低い土質だった。高冷開拓地のため、度重なる苦難があった。ようやく開墾が進み、食糧増産に励んだが、53～57年の冷害で大きく挫折した。

それを機に、主穀経営から酪農経営への転換を目標とした。国の振興対策などで次第に発展。現在、県を代表する酪農専業地域となっている。

上原開拓農協（75年解散）の事務所は鳴子町にあった。開拓記念碑が、入植35周年の83（昭和58）年に建立された。碑銘は「拓碑」で、碑文は「雲が流れる 緑が広がる 三十五年の労苦を経て 今上原は逞しく生きる」となっている。すぐ近くに、畜魂碑も建立されている。

上原開拓

開拓記念碑 拓魂

宮城県知事 山本壮一郎 書
昭和五十八年三月吉日建之

（碑文） 雲が流れる
緑が広がる
三十五年の労苦を経て
今上原は逞しく生きる
文 鳴子町長 寺坂二男

